

都市農業への挑戦!

一 地場野菜・生活クラブ農園 1976年



1995年 世界貿易機関 (WTO) 発足!



1983年



2003年 農安心ネットワーク結成!



2002年 農作業受託組織



東京でも市民参加で都市農業を守り育てる活動が始まる

がんばろっ!!

地場野菜の取組み

野菜の取組みで当初一番の問題だったのは、需給調整だった。欠品も多い一方で、沢山できたときには注文以上に引き取ってもらっていた。また、1987年頃からは、形もサイズもバラバラな大量の旬の野菜を加工することで生産者や共同購入を支えようと、加工事業を始めるワーカーズ・コレクティブも現れた。

輸入自由化の時代

1995年WTO (世界貿易機関) が設立すると、食の安全性はおきざりのまま、農産物の輸入拡大はすすみ、1965年にはカリロベースで73%もあった食料自給率は2018年には、37%にまで下がっていった。

生活クラブでの野菜の取組みは徐々に増えていったが、地場野菜だけでは種類も限定され、欠品も多く「当てにできない」といわれる状況であった。これらの問題に対して、2000年に全農 (全国農業協同組合) との共同事業に取り組み、持続可能な産地を全国規模で提携していくこととした。2019年現在、交流関係が深く生活クラブの独自規格に従って出荷している「提携生産

生活クラブが農業参入へ!

2011年 農業体験農園のらっこおいぬま開園!

組合員が耕作体験ができる!!



提携生産者の畑で指導を受ける



生活クラブも農地を持ってんじゃない?

それって!!

え?!

生活クラブも農地を持ってんじゃない?

え?!

2009年 農地法改正で法人の農業参入が緩和したんだよね



生活クラブ農園あきる野運営委員会設置!

組合員の参加のしみ

農地を持つのは

etc.

生産販売の体制はどうする?

やるべき問題はいろいろある!!

様々な問題をなんとかクリアして!

農園は二つ! 「直営農場」と「農業体験農園」

農機具や種も生活クラブが用意します。

農場ボランティア

育てた野菜は出荷!

食べて応援! 届くのが楽しみ!

テポー

組合員宅

2016年 生活クラブ農園あきる野スタート!!

農業体験農園のらっこあきる野

プロの指導!

農機具や種も生活クラブが用意します。

農業にできるだけ頼らない!

生きものや環境にやさしい農業をめざそう!

入園者どうしの情報交換や交流も!

ここは元は荒れた栗畑の休耕農地だったんだよ。

休耕農地も活かして自分で育てた野菜が食べられるのね!

固定種の野菜をドキドキ!

のらっこあきる野

作物が育つとこを子どもに見せられる!

いろいろな野菜を育ててみよう!

2017年 農あるまちづくり委員会設置!

農を通して様々な人が出会い、交流し、参加する場をつくっていきましょう!

作りやすく改良されたもの

F1 (エフワン) 種

- 均一なものができる
- 安定した収量
- 作りやすい

味よりも作りやすさ重視

今の野菜の主流!

おいしい食べ方を考えよう!

固定種を食べて品種を維持して行かなくちゃね

生活クラブ農園は無農薬や固定種の栽培にもチャレンジしているの!

伝統と文化の中で育まれてきたもの

固定種

- 形、大きさがバラバラ
- 収量が少ない
- 栽培に工夫が必要

味は良いが作りづらい

手間がかかるので一般の農家では取り組みづらい種なんだ。

者」は全国で68グループ。一定の基準をクリアし栽培方法などを情報公開している「指定産地」が約200になる。

農あるまちづくりへむけて

全農との提携の一方で、援農や就農支援、地場生産者との連携によるデポーへの出荷など都市農業へのアプローチもすすめられた。2009年の農地法改正で、企業(法人)による農地の所有に対する規制が緩和されたことを受けて生活クラブでは、あきる野に直営農場をスタート。農業体験や、無農薬栽培、固定種の栽培を行ない「農あるまちづくり」の実践にチャレンジしている。

種を自家採取しても次世代で同じ性質のものは育たないF1種に対して固定種はそれが可能。ただし、栽培や食べ方に工夫も必要。地域の伝統に根差した固定種は、食べる文化も伴っているので、価値観の共有が重要になってくる。生活クラブ農園では「寺島ナス」や「内藤かぼちゃ」などさまざまな固定種に取り組んでいる。また、地場生産者からは、「新黒水菜小松菜」や「黒田五寸人参」などがデポーへ出荷されている。